



50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番号 ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ															
<p>君がため惜しからざりしいのちさえ きみがためおしからざりしいのちさえ 君がため惜しからざりしい命さへ</p>	<p>御垣守衛士の焚く火の夜は燃え 御垣守衛士の焚く火の夜は燃え</p>	<p>風をいたみ岩うつ波のおのれのみ みかきもりえじのたくひのよるはもえ 風をいたみ岩うつ波のおのれのみ</p>	<p>八重葎しげれる宿のさびしきに やえむぐらしげれるやどのさびしきに 八重葎しげれる宿のさびしきに</p>	<p>由良の門を渡る舟人かぢを絶え ゆらのとをわたるふなびとかじをたえ 由良の門を渡る舟人かぢを絶え</p>	<p>あはれともいふべき人は思ほえで あわれともいふべきひとはおもおえで あはれともいふべき人は思ほえで</p>	<p>逢ふことの絶えてしなくはなかなか あうことのたえてしなくはなかなか 逢ふことの絶えてしなくはなかなか</p>	<p>逢ひ見ての後の心にくらぶれば あいみてののちのこころにくらぶれば 逢ひ見ての後の心にくらぶれば</p>	<p>契りきなかたみに袖をしぼりつつ ちぎりきなかたみにそでをしぼりつつ 契りきなかたみに袖をしぼりつつ</p>	<p>恋すてふわが名はまだき立ちにけり こいすちようわがなはまだきたちにけり 恋すてふわが名はまだき立ちにけり</p>	<p>ひとしれずこそおもいそめしか 人知れずこそ思ひそめしか ひとしれずこそおもいそめしか</p>	<p>すえのまつやまなみこきじとは 末の松山波越さじとは すえのまつやまなみこきじとは</p>	<p>むかしはものをおもわざりけり 昔は物を思はざりけり むかしはものをおもわざりけり</p>	<p>ひとをもみをもうらみざらまし 人をも身をも恨みざらまし ひとをもみをもうらみざらまし</p>	<p>みんいたずらになりぬべきかな 身のいたずらになりぬべきかな みんいたずらになりぬべきかな</p>	<p>ゆくえもしらぬこいのみちかな ゆくへも知らぬ恋の道かな ゆくえもしらぬこいのみちかな</p>	<p>ひとこそみえねあきはきにけり 人こそ見えね秋は来にけり ひとこそみえねあきはきにけり</p>	<p>くだけてものをおもうころかな 砕けて物を思ふころかな くだけてものをおもうころかな</p>	<p>ひるはきえつつものをこそおもえ 昼は消えつつ物をこそ思へ ひるはきえつつものをこそおもえ</p>	<p>ながくもがなとおもいけるかな 長くもがなと思ひけるかな ながくもがなとおもいけるかな</p>	<p>みぶのただみ 壬生忠見 みぶのただみ</p>	<p>きよはらのもとすけ 清原元輔 きよはらのもとすけ</p>	<p>ちゅうなごんあつただ 中納言敦忠 ちゅうなごんあつただ</p>	<p>けんとくこう 謙徳公 けんとくこう</p>	<p>そねのよしただ 曾禰好忠 そねのよしただ</p>	<p>えぎようほうし 恵慶法師 えぎようほうし</p>	<p>みなもとのしげゆき 源重之 みなもとのしげゆき</p>	<p>おおなかとみのよしのぶあそん 大中臣能宣朝臣 おおなかとみのよしのぶあそん</p>	<p>ふじわらのよしたか 藤原義孝 ふじわらのよしたか</p>